

<福島県教育長賞>

## 未来を築く税金

下郷町立下郷中学校 三年 佐藤 桃奈

令和元年十月から始まった消費税の軽減税率制度は、低所得者へ配慮するという目的で進められてきた。「生活する上で必須になる食料品の税率を低くする」というもので、確かに消費者の出費が抑えられる点がメリットだと思われる。

さらに、軽減税率の導入によって、事業者側にも得られるメリットがある。今まで、イートインで行っていた飲食店も、テイクアウトや宅配サービスを展開することで、新規顧客を獲得できるチャンスが広がるという点だ。このテイクアウトが今まさにコロナ禍において注目されている。

新型コロナウイルスは、「指定感染症」であることから、ワクチン接種や検査、感染してしまった時の治療の費用は、公費で賄われるために、自己負担がないのがあるがたい。私たちが納めている消費税や所得税などの「税金」が使われていることを知った。

私は小さい頃に、祖母から、学校や役場、消防署や警察署は税金で建てられていることや小中学校の教科書も税金で作られていて、無償だということを教えてもらって知ってはいたが、今コロナ禍にこの税金の果たす役割の大きさは目を見張るものがあると思う。感染してしまっても長期入院になれば、多額の費用がかかることになるが、公費で賄ってもらえれば安心して治療に専念できる。税金のしくみに改めて感謝したい。

私の住んでいる下郷町では、独自の新型コロナウイルス感染症に関する支援制度が充実している。世帯や個人向け制度として、感染拡大防止支援がある。全世界帯にマスク、給付金、商品券の配布、高校生や大学生の学生支援金の給付、集会所への消毒液の配付、町税の徴収猶予や介護保険料、国民健康保険税の減免などである。

また、事業者向けの制度として、感染拡大防止協力金や応援給付金の支給がされて

いる。そして、南会津町、只見町との三町合同事業として、オンライン就活支援事業なども実施されており、親身になって相談会を開いてくださっていると聞いた。

未曾有のコロナ禍に安全安心な暮らしを送るために、「税金」というありがたいものが私たちの生活を支えてくれている。去年は、多くの家族が苦しい状況の中、国からの特別定額給付金が各家族に支給されたことで、何とかやりくりしたという家庭も多かったのではないだろうか。

私たちの生活は税金を納めるだけでなく、税金に支えられて、生活が成り立っていることを改めて感じた。大人が苦勞して一生懸命働いて納めている税金のおかげで私たちの未来が築けることに感謝したい。そして私も将来しっかり税金を納める責任ある社会人になりたいと思う。